

収録・解説 酒井董美 たけよし

語り手 松原アキさん
(大正12年生まれ)
平成7年4月22日収録

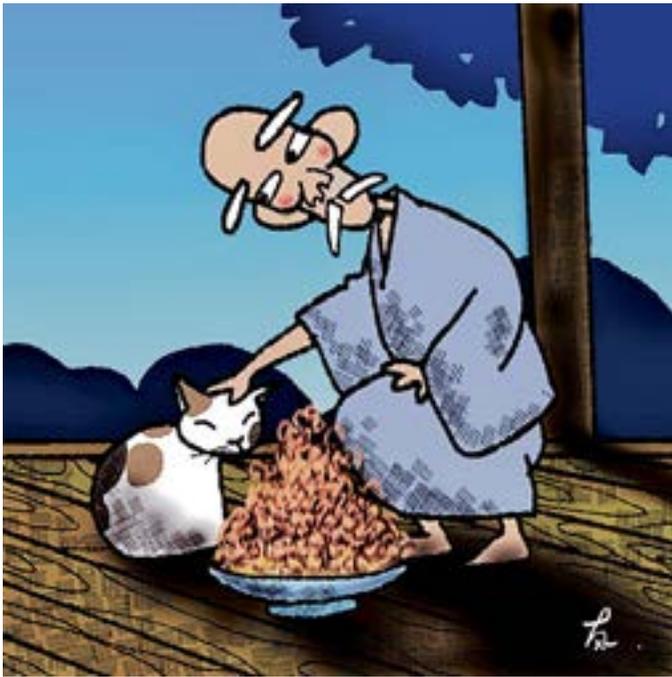
あらすじ

昔、古いお寺があり、
いつのころかお化けが出
るようになりました。和
尚さんが行くと必ず食い
殺されます。

そこに心優しい和尚さ
んが1匹の猫を連れて住
まわれましたら、怪物も
出なくなりました。みな
が「和尚さんがいいから、
怪物も怖がって出てこ
ん」と言っていました。
飼っているタマが、近
くの床屋さんのフジとい
う猫と仲が良くなり、い
つも一緒に遊んでおりま
した。この2匹の猫は盆
踊りが好きで、女の子に

猫の恩返し

(米子市今在家)



イラスト・福本隆男

「動物報恩」の「鼠退治」と一致

破られ、2人は猫だとい
早くから起きて、タマの
恐ろしくなりません。

うことが分かりました。
人々はそのことを和尚
さんに話しました。
すると、タマはそれを
ろしがっておられまし
た。

「困った。わしももうこ
こにおられんわい」と恐
ろしがっておられまし
た。
その夜、和尚さんも一

大好物のかつお節のごち
そうをしてやりました。
和尚さんは「かわいそ
食べいなくなりました。
うだけれども、もうここ
に置くことはできんか
て、お寺ではまた下の
でガタガタいたりする
ら、どうか他所に飼っ
てもらえ。お別れにご
うしてやる」と言い、
朝ました。和尚さんは
もう早くから起きて、
タマの恐ろしくな
ません。

ある日、知らない女の
緒に隠れていましたら、
大ネズミが化けて出て
きて、それから猫たち
みん
な寄ってたかって、大
ネズミを食い殺しまし
た。

解説

米子市内の語り手を
捜して歩いている折、た
まをたぐさん連れて来
てたま知り合った松
原アキさんに語って
ください。出身は西
伯郡日吉津村なので、
この話はそこで聞か
れたものかもしれない。
この話は「動物報恩」
の中に「鼠退治」として
登録されています。

（元鳥取短期大学教授）
（水曜日に掲載）